

## 「アフリカの角」干ばつ危機に対する中長期的な取り組みを開始

2012年4月27日

2011年、ソマリア、ケニア、エチオピア、ジブチなど「アフリカの角」地域を襲った干ばつ（注1）は、今も人々に深刻な影響を与えている。東アフリカにおける食料安全保障と干ばつ対応への調整を行う政府間開発機構（Intergovernmental Authority on Development : IGAD）（注2）は、「アフリカの角干ばつレジリエンスにかかる閣僚級／ハイレベル開発パートナー会合」を、2012年4月3日から4日にかけてナイロビで開催。干ばつ危機の終焉（えん）をキーワードとする、地域プラットフォームの創設、緊急人道支援と開発援助の協調・調和の促進、新しい支援枠組み（Common Program Framework）の設立に、IGAD加盟国と主要ドナーが合意し、協力してこの課題に取り組んでいくことを確認した。

2011年9月にナイロビで開催された「アフリカの角危機サミット」では、同地域の干ばつは、もはや慢性的なものであり、これまでの緊急的な人道支援を中心とした対応を見直し、主たる被災地である乾燥地の中長期的な開発を通じて干ばつへの「対応能力（レジリエンス）」を強化することの重要性が確認された。また、IGADを調整機関として地域全体として包括的な取り組みを行っていくことが合意された（ナイロビ宣言）。

冒頭の4月の会合は、このサミットの流れを受けたもので、サミット以降の約半年間での状況変化に応じ、「アフリカの角」の干ばつに対する関係者のコミットメントを確認することを目的に開催されたもので、各ドナーの具体的な支援の加速につながっている。

### 中長期的な対策に向けて



北部地域の牧畜民、レンディレ族を対象に行われた調査

このような国際社会の動きを受け、JICAは、ケニアやエチオピアにおいて、干ばつ被害を受けた人々への支援を本格化している。

ケニアでは、北部地域の牧畜民を対象に、牧草や水などの自然資源の持続可能な管理、家畜バリューチェーンの改善、生計多様化の実現を目指すプロジェクト（注3）を2012年3月より開始。従来の政府によるトップダウン型の対応ではなく、干ばつ被害の当事者である牧畜民コミュニティの能力向上を通じた干ばつ対応能力の向上を目指している。本プロジェクトでは、複数のパイロットプロジェクトの実施を通じて、対象コミュニティが干ばつのリスクを正しく理解して対策を考え実行できる能力、コミュニティ防災（注4）能力を強化する予定だ。

エチオピアでも、繰り返し発生する干ばつに脆（ぜい）弱な地域において、牧畜民や農牧民を対象に、水と農業分野で二つのプロジェクト（注5）を2012年3月より開始した。水分野では、水資源の利用可能性をまとめた地図や給水計画を策定し、農業分野のプロジェクトでは、農業生産の安定化や畜産能力の向上、また、天候保険の導入や灌漑（かんがい）の整備などにも取り組む予定だ。これらのプロジェクトは、生計の向上や多様化など、中・長期的な視点に立って、外部からのショックに対する住民とコミュニティの対応能力強化に向けた指針の提供を目指す。



プロジェクト対象地域では、現在ため池の水が使用されている

### 人道支援から能力強化へのシフト



牧畜民を経済の重要な担い手としていくことが、干ばつの危機から脱する鍵となる

アフリカの農業・農村開発の文脈において、牧畜民は長らく忘れ去られた存在だった。しかし、乾燥地における経済活動としては、最も効率的で生産性が高いとして、牧畜が近年、再評価されている。上記のプロジェクトは、牧畜の生計手段としての比較優位性を高める取り組みや農業・農畜産物加工の導入などを通じて、「アフリカの角」地域の牧畜民を単なる「人道支援の受け手」から「経済の重要な担い手」へと転換させることを目標としている。

「アフリカの角」地域においては、過去30年以上にわたって、「干ばつ危機」と「人道支援」のいたちごっこが繰り返されてきた。今、求められているのは、同地域が二度と「干ばつ危機」に見舞われることがないようにするための取り組みである。JICAは今後も、「アフリカの角」地域におけるコミュニティの対応能力強化を通じて、干ばつ危機の終焉に向けた支援を展開していく。

(注1) 過去60年で最悪といわれ、国連人道問題調整事務所（UNOCHA）によると、緊急人道支援を必要とする住民は1,300万人以上に及ぶ。

(注2) 1996年に設立されたアフリカ連合（AU）傘下の地域経済共同体。ウガンダ、エチオピア、エリトリア、ケニア、ジブチ、スーダン、ソマリア、南スーダンの8カ国が加盟。地域の食料安全保障と干ばつ対応のための加盟国間の調整を主な目的としている。

(注3) 「北部ケニア干ばつレジリエンス向上のための総合開発及び緊急支援計画策定プロジェクト」

(注4) Community Based Disaster Risk Reduction。近隣地域社会の共助を中心としてコミュニティの災害対応能力の向上を目指した防災アプローチ。2005年の国連防災世界会議で採択された「兵庫行動枠組み」においても期待される成果の一つとして位置づけられている。

(注5) 「エチオピア国農村地域における対応能力強化緊急開発計画策定プロジェクト」  
「エチオピア国ジャラル渓谷及びシエベレ川流域水資源開発計画策定・緊急給水プロジェクト」

---

## 関連リンク

[ケニア共和国「第二次地方給水計画」の贈与契約の締結－干ばつにあえぐ「アフリカの角」地域でのJICAの支援の一例－（2011年8月9日、プレスリリース）](#)

[ケニアの経験をソマリアの保健システム強化のために－JICAのソマリア支援が20年ぶりに再開－（2011年9月16日、トピックス）](#)

[ソマリア共和国内における活動を21年ぶりに再開－首都モガデシュ市近郊の国内避難民を対象とした給水・衛生分野の調査実施－（2012年1月17日、プレスリリース）](#)

[SOSアフリカ（なんとかしなまきゃ！プロジェクトのウェブサイト）（外部リンク）](#) 